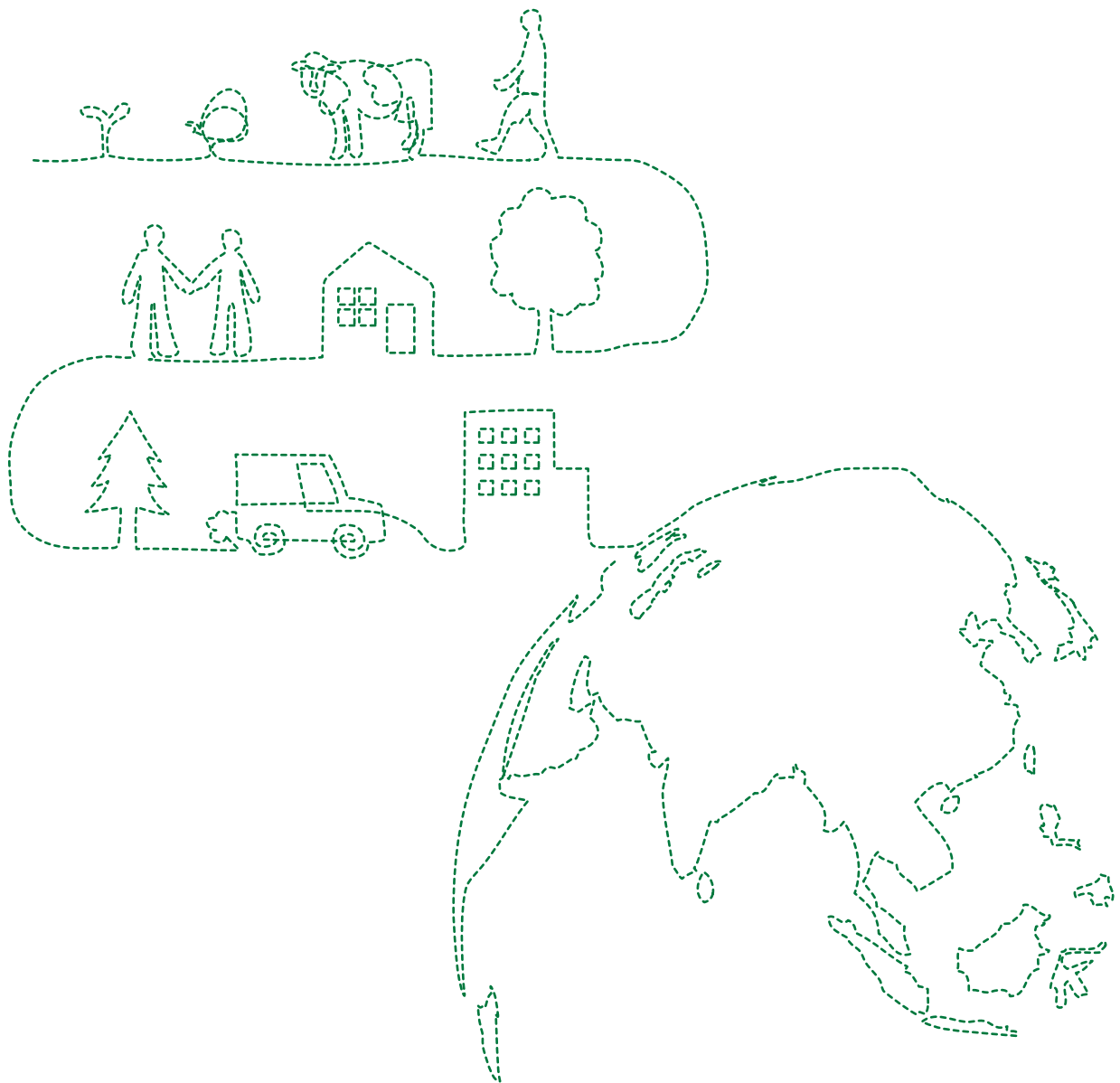


2016 TSUNAGU

生協・環境・社会活動報告書



生活協同組合 パルシステム東京は 食を中心に「安全・安心な暮らし」を組合員に お届けする生協です。

パルシステム東京の理念

「食べもの」「地球環境」「人」を
大切にした「社会」をつくります

- 1. 食べものの安全性にこだわり、生活者のくらしと健康を守ります
- 2. 日本の食料自給力を強めるため、生産者とともに産直運動を発展させます
- 3. 安全・品質・価格・産直・環境面でもっと優れた「商品」をつくります
- 4. 女性の社会参加を応援します
- 5. 平和、地球環境、福祉、たすけあいの活動を広げ、地域社会に貢献していきます

2020ビジョン

ともに つくる くらしと地域

パルシステム東京は、生活協同組合として、組合員のくらしを多様に創造し、
一人ひとりが輝いているコミュニティづくりと持続可能な資源循環型社会づくりをすすめます



- ①組合員の多様なくらしを、「安全」「安心」な商品とサービスで支えている
- ②組合員の活動が多彩に拡がり、多様な参加が実現している
- ③すべての事業と活動に、「福祉」の視点を貫いている



- ①地域の活性化と調和につながる事業と活動をつくりだしている
- ②地域のNPOや行政等と連携し、誰もが安心して住み続けることのできる地域をつくりだしている
- ③地域性をいかした活動に、誰もがいきいきと取り組むことができる環境をつくりだしている



- ①産直運動で日本の農林水産業を守り、活力のある地域をうみだしている
- ②平和で公正な社会づくりに向けた運動をつくりだしている
- ③資源循環型社会づくりに、事業と運動の両面から取り組んでいる

編集方針

生活協同組合パルシステム東京は、「食べもの」「地球環境」「人」を大切にした「社会」の実現に向けた活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、毎年「TSUNAGU 生協・環境・社会活動報告書」を発行しています。

本冊子では、継続的に行っている「食べもの」「地球環境」「人」に関する活動の中から主なものを報告しています。また、大きな広がりを見せた「指定便」「見守り活動」「新電力事業」の活動は、特集として取り上げました。多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの基点となるよう、事業の特徴を踏まえた報告を心がけています。

ステークホルダー

組合員の皆様、お取引先様、行政、諸団体など組合員・事業として取り組みを進める皆様、および職員

対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日

対象範囲

パルシステム東京 本部事務所／配送センター（17カ所）／福祉事業所（26カ所）／保育園（1カ所）

INDEX

パルシステム東京の理念・2020ビジョン	2
編集方針	3
パルシステム東京について	
ごあいさつ・生活協同組合とは	
パルシステムグループ・組織概要	4
事業概要	6
特集	
1.多様化する社会のニーズに応えるために	8
2.再生可能エネルギーを広げるために	10
食	
1.安全な「食」を求めて	13
2.商品の価値を伝える	16
3.食料自給力の向上をめざして	18
地球環境	
1.地球温暖化を防ぐために	21
2.一人ひとりのくらし方を見直す	23
3.身近な自然を守る	26
人	
1.地域とつながる	29
2.平和な暮らしを守るために	32
3.被災地の復興を支援する	34
人材育成・働く環境づくり	36
リスクマネジメント	38
巻末資料	39

お問い合わせ

本冊子の内容等に関する
ご意見、ご要望、お問い合わせは
palsystem-tokyo@pal.or.jp
もしくは右記QRコードからお寄せください。



ごあいさつ

協同の力をつないで未来へ

2015年、パルシステム東京が合併し今の形になってから20年が経ちました。合併時約14万人だった組合員数は45万人を超え、宅配事業を中心に、福祉や電力分野での事業と活動も広がり、社会的責任も大きくなってきています。協同組合は「協」の字に表されているように、「力」をたくさん寄せて集め、人々をつないで力で社会を変える運動であると考えています。商品づくりにおいても組合員の“選んで買う力”で社会を変えていこうという運動を継続中。例えばもずくやほたての利用代金の一部が珊瑚の養殖、海を守るための植樹などにあてられるのはその一例です。「力」をつないで社会を変える運動は、事業のほか、TPPや遺伝子組み換え食品への反対運動、原発事故被害者の支援活動や平和の行動などさまざまに展開。世界の子どもたちへの平和カンパや福島の子どもたちへのカンパ、大規模災害被災者支援カンパなどにも、その数字に大きな協同の力が示されています。さらに国内外の他団体とも広くつながり、次世代へとつながる市民連帯経済としての力を伸ばし、社会を変える力を創造していきたいと考えています。今後も私たちと手をつないでくださるよう、よろしくお願いいたします。



生活協同組合 パルシステム東京
理事長 野々山 理恵子

くらしに寄り添った事業改革を

パルシステムでは、「組合員が10人いれば10通りのくらしがある」という考えのもと、それぞれのくらしに対応できる仕組みづくりを行ってきました。昨年から、若年層向けの「タペンダ」、高齢者向けの「きなりセレクト」、配達時間が指定できる「指定便」という新しいサービスを提供し、多様なニーズに応えたことで組合員は増加しています。TPPが批准されようとする中、ずっと国産を大切に、国内農業を守ってきたパルシステム。生産者と組合員と想いをひとつに食料自給力を高める運動を進めていきます。福祉では、行政との見守り協定を積極的に進めつつ、地域になくてはならない存在を目指します。また、食を中心としたパルシステムらしいサービス改善に努めながら、「地域に根ざした総合サービス」を追求します。さらに、2016年の電力自由化を受けて、秋から再生可能エネルギーを中心とした新電力事業を開始し、組合員が選択できるようにします。そのことで、地域社会との協同や持続可能な社会を目指し、脱原発運動を進めていきます。



生活協同組合 パルシステム東京
専務理事 辻 正一

生活協同組合とは

パルシステム東京は生活協同組合です。生活協同組合(以下、生協)は、組合員の生活の文化的・経済的改善向上を図ることを目的に設立された組織です。一般の企業と違い、組合員自らが出資し、自分たちのくらし全般をよくしていくためにそれぞれが思いを寄せ合いながら組織の方針を決め、それに基づいた商品・サービスを利用します。組合員一人ひとりが、生協という組織の「主体」なのです。



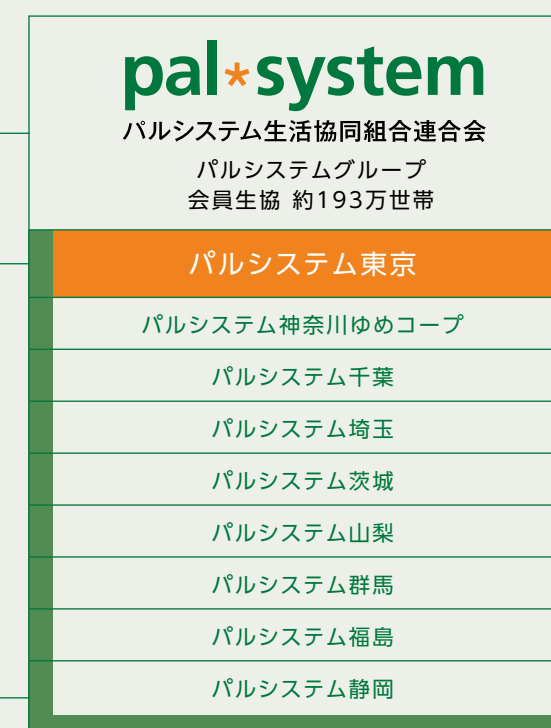
パルシステムグループ

商品や環境政策などについて考え方を共有する9(※)生協が、パルシステムグループを構成しています。パルシステム東京はこのグループの中で、総事業高と組合員数共に最大規模の生協です。

※利用事業会員を含めると13生協

●パルシステム連合会は
商品開発、仕入れ、商品管理、物流、
情報システムを担当

●それぞれの生協は
商品やサービスの供給、福祉事業、
組合員活動の支援ほかを担当



組織概要

名称	生活協同組合パルシステム東京
設立	1970年4月1日
役員	理事長 野々山 理恵子 専務理事 辻 正一 常務理事 佐藤 健二 業務執行理事 高橋 成秀 業務執行理事 長屋 豊
事業エリア	東京都全域(島嶼を除く) 本部所在地 東京都新宿区 配送センター 17カ所 福祉事業所 26カ所 保育園 1カ所
職員数	1,771人(定時職員含む)
組合員数	45万0,710人
総事業高	726億6,860万円

※2016年3月末現在

事業概要

宅配事業

食の安全・環境に配慮した商品やサービスを組合員にお届けするパルシステム東京の基幹事業です。2015年度供給高696億7,800万円、前年度比103.1%、予算比103.0%となりました。2015年度は注文用紙の大型化と専用注文用紙の導入、選ぶで変わる「ほんもの実感!」の取り組みなどにより好調に推移しました。また指定便が全センターで稼働となり、「タベソダ」(スマホ向け注文アプリ)も新規加入を順調に伸ばすなど、新たな取り組みが着実に浸透しつつあります。



配送センター



ライフスタイルに合わせて選べるカタログや注文方法



福祉事業

福祉事業所「陽だまり」では、デイサービス、訪問介護、ケアマネジメント、認知症対応型デイサービス、グループホーム、福祉用具貸与を展開しています。2015年度福祉事業収入は9億6,600万円、前年度比101.6%、予算比101.3%となりました。通所介護を中心に介護報酬引き下げの影響を受けましたが、福祉事業全体では予算を達成しました。また、パルシステム食材を中心とした食事提供は、デイサービスセンター愛宕陽だまりを皮切りに、府中陽だまり、八潮陽だまりにも広がっています。



府中陽だまり



保育事業

2014年3月より新設の府中陽だまりの複合施設として「ばる★キッズ府中」を開園しました。木のぬくもりが感じられるフロアで、園児とお年寄りが自然な形でふれあう共生ケアを設けています。2015年2月に行われた東京都認可外保育施設立ち入り調査の結果、A評価となる「認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証書」が交付されました。休園日は毎月一回保育スペースの開放や食育講座などを開催しました。



ばる★キッズ府中



方針策定にも 組合員の声を反映させています

パルシステムは、商品づくりや改善・品質向上はもちろん、より利用しやすい事業に向けた改革や新しい取り組みを積極的に進めるために、より多くの組合員の声を活かす仕組みを構築しています。2015年度も「あなたの声をパルシステム東京へ2015」(WEBアンケート)を実施。昨年度実績を大きく上回る6,085件の声が集まり、多くの組合員が運営に参画しました。



〈2015年度アンケート結果〉(一部抜粋、複数回答可)

パルシステム東京の福祉事業に、期待したいものは何ですか。

- 高齢者介護事業に積極的に取り組んでほしい.....56.7%
- 保育園など子育て事業に積極的に取り組んでほしい.....47.2%
- 障がい者への支援に積極的に取り組んでほしい.....29.5%

東日本大震災被災者支援活動のうち、今後も取り組むべき、または取り組んでもらいたい活動をお答え下さい。

- 組合員ボランティアによる被災地支援.....36.2%
- 組合員による復興支援活動への助成(パル未来花基金).....35.6%
- 福島支援カンパ.....25.4%
- 都内避難者への支援.....24.8%
- 医療機関における甲状腺検診の費用補助.....20.5%

特集1

多様化する社会のニーズに応えるために

パルシステムは働く女性のニーズに応え、他生協に先駆けて1990年に「生協の個配」を開始し、2001年にはインターネット注文にもいち早く取り組みました。しかし組合員の生活やとりまく環境はますます多様化しています。そんな変化に対応し組合員や社会のニーズに応える事業が求められています。パルシステム東京は組合員一人ひとりから寄せられる「こんなことに困っている」の声に応え、これからも「組合員一人ひとりが主役」という精神を守りながら、時代のニーズに合わせ、進化を続けていきます。

多様なライフスタイルに対応する「指定便」

これまでの生協の宅配は定期的に週に一度、生協が指定する曜日・時間帯で利用するのが一般的でした。しかし、配達時に在宅をしていないと商品の受け取りが難しい多重オートロックマンションでの利用や、少人数世帯で必要な時だけ商品を頼みたい、週2回の配達をしてほしいなどの多様化するニーズに応えるため、2014年1月、一部の地域から「パルシステムの指定便」を開始しました。指定便は高いニーズを背景に順調に対応エリアを拡大し、2016年3月には全ての配送センターで利用可能となりました。



指定便が選ばれる3つの理由

1. 不在時に受け取れない方にも便利

オートロックで配送担当が入れない、玄関先に荷物を置けないなどの事情がある方におすすめです。

2. 必要な時に必要な分だけ利用できる

毎週はもちろん今週は2回、月に1・2回など自由な頻度で利用できます。

3. 注文3日後にお届け

最短で注文3日後に配達。従来の仕組みより注文から配達までの時間が短縮され、さらに利用しやすくなりました。



利用者の声

オートロックマンションでも、玄関前に配送箱は置けます。でも、共用廊下はやっぱり気を遣います。しかも、一週間分の食材のほとんどをパルで買うので大量！配達時間に合わせて、慌てて帰ったこともしょっちゅうありました。仕事の時間が増え、それも厳しくなっていた時に「指定便」を知って変更。とっても助かっています!! (大田区・Mさん)

配送を通じて地域を見守る「見守り活動」

生協では事業や活動を通じて誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献することを掲げています。毎週同じ曜日、時間帯に同じ配送担当者が訪問する生協の宅配事業の特徴をいかし、自治体が進める見守り活動に協力しています。「見守り協定」は宅配業者などが工作中、高齢者・障がい者などの地域住民の異変に気付いたら行政機関に連絡するという行政との約束ごとです。日々さまざまな組合員に接するパルシステム東京にも、各自治体から協力要請をいただいています。

見守り活動の流れ

ポストに郵便物がたまるなど、組合員などの異変に気付く

配送センターへ連絡

※緊急を要する場合は配送担当が救急連絡などを行う

自治体へ連絡、自治体の関連機関が対応

配送担当は配達時に普段と変わりがいないか、商品購入に不自然な点(極端に大量に買う、同じものばかり買う)などがないか、気にかけています。毎週会って話しているからこそ、少しの異変に気付けるのが特長。

東京都および都内34の行政区と締結



※見守り協定などを交わしていない自治体でも、同じ目線で組合員や地域をさりげなく見守っています。



「台東区における支援が必要と思われる高齢者に係る情報の提供」に関する協定を締結



「国分寺市高齢者等の見守り活動に関する協定書」を締結

パルシステム東京では2016年3月末までに都内34の行政区と見守り協定を締結しました。地域包括支援センターおよび行政の関係各課と連携して、早期の安否確認、対応に貢献しています。引き続き、見守り活動を周辺行政に広げていきます。

認知症サポーター養成講座

配送センターでは配送担当者を中心に「認知症サポーター養成講座」を受講し、認知症への理解も深めながら地域の見守り活動に取り組んでいます。パルシステム東京は今後も、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一端を担っていくため、積極的に「見守り活動」の輪を広げてまいります。



特集2

再生可能エネルギーを広げるために

パルシステム東京は全国の生協に先駆けて、2013年4月に子会社(株)うなかみの大地で新電力事業をスタートさせ、再生可能エネルギーで発電した電力を中心に、パルシステムグループの事業所へ電気を供給してきました。2016年3月からは(株)パルシステム電力へ移行し、10月以降、組合員への供給を開始します。

自然の力でつくる電気

再生可能エネルギーとは、太陽光、風力、バイオマス、水力、地熱など自然の力を使ってつくる電気のことをいいます。資源が枯渇する心配がなく、発電時にCO₂の排出が少ないため、地球温暖化の防止にも貢献できます。パルシステム東京の新電力事業では、主にバイオマス、小水力、太陽光の発電所から電気を購入しています。

再エネ電力の構成(発電能力)

構成			総電力
バイオマス	小水力	太陽光	4,406kW ※前年比130%
2,567kW	672kW	1,167kW	

バイオマス

家畜の糞尿、食品廃棄物、木質廃材などを利用した発電方法。やまがたグリーンパワー(株)では果樹園の剪定枝や間伐材を燻してガス化させ、エンジンで発電しています。



さくらんぼの剪定枝などから発電

小水力

大規模ダム開発を伴わずに、日本中に流れる川や農業用水などの落差を利用した発電方法。昼夜、年間を通じて安定した発電が可能な電源として注目を集めています。



山形県のお米の産地でも農業用水を活用して発電

太陽光

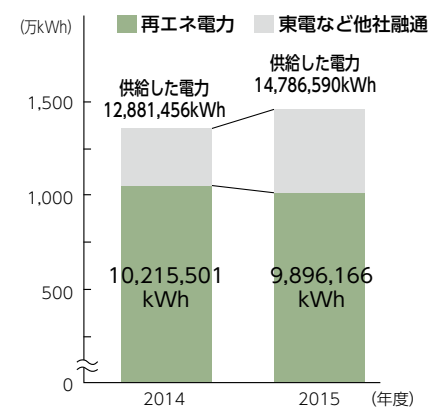
太陽光パネルを用いて直接的に電力に変換する発電方法。コストが割高なもの、廃棄物や騒音・振動などが発生せず、需要ピーク電力の削減にも力を発揮します。



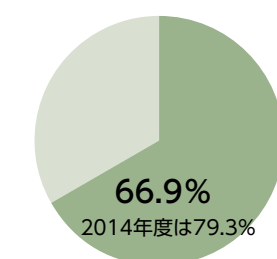
多摩センター屋上の太陽光パネル(発電能力30.38kW)

新電力事業2015年度実績

パルシステム東京の新電力事業は2016年2月末まで子会社である(株)うなかみの大地を通じて展開し、パルシステムグループ36事業所(うちパルシステム東京18事業所)に14,786,590kWh(前年度比114%)の電力を供給しました。そのうち66.9%を再生可能エネルギーでまかないました。



(2015年度 再エネ率)



※バイオマス発電機トラブルや1か月に及ぶ法定点検などで、発電日数が減ったことなどにより、再生可能エネルギー量が減少したため再エネ率が低下しました。

電気供給に向けて

再生可能エネルギーを求める組合員の声を受け、パルシステムの強みである産直産地などとのネットワークを活かして、電源開発を行ってきました。また、再生可能エネルギーを選択できる社会、そして地域分散型のエネルギー社会を目指して、さまざまな学習会や交流を通じて理解と共感の輪を広げてきました。



栃木県那須野ヶ原の小水力発電施設を訪れるバス見学会を開催

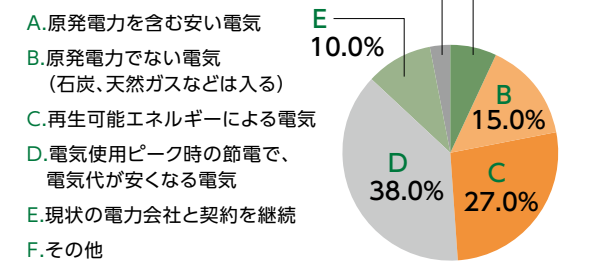


国際協力NPOソーラーネットの協力で太陽光パネルを手作り

再エネの意識調査を実施

2015年5月に「新電力アンケート」をパルシステム東京組合員向けに実施し、8,300世帯から回答をいただきました。多少高くても再生可能エネルギーを購入したいとの意見が多くありました。

購入希望電源の傾向



電気の小売予約スタート

2016年10月以降、(株)パルシステム電力から組合員宅への電力供給を開始するのに先駆けて、パルシステム東京組合員に向けて予約申込受付をスタート。使うほどに安くなる電気ではなく、省エネと再エネ推進を両輪とした脱原発社会の実現を目指す電気事業を展開していきます。



脱原発運動の推進

食べもの、地球環境、人に甚大な被害をもたらす原発に対し、他団体と連携して再稼働と輸出に反対します。代々木公園で開催された「9.23さようなら原発 さようなら戦争 全国集会」、「原発のない未来へ! 3.26全国大集会」などに組合員や脱原発をすすめる団体とともに参加し、脱原発と再稼働反対を訴えました。



食



「ほんもの」を届けるために



パルシステムは設立以来、組合員、生産者とともに安全・安心な食づくりを進めてきました。

放射能や農薬、食品添加物についても国の基準より厳しい独自の基準を設定して

よりレベルの高い「安全・安心」を追求しています。

TPPに代表される経済優先の流れが食の安全をおびやかす中で

パルシステムがめざす「ほんもの」の食べものを組合員にお届けしています。

1. 安全な「食」を求めて

安全・安心な農産物の生産に、農薬や化学肥料の使用削減と放射能対策は欠かせません。

パルシステムではそれぞれに独自の基準を設定し、見直しを続けながら生産者とともに、より安全でおいしい産直農産物の生産に努めています。

農薬削減の取り組み

「エコ・チャレンジ基準」への理解を深める

パルシステムでは農薬と化学肥料の使用について独自の基準を定めています。また、できるかぎり消費者である組合員が実際に生産者を訪ね、農薬や化学肥料に頼らない農産物の栽培にどれだけの手間とコストがかかるのかなど、理解を深めています。

パルシステム独自の基準「コア・フード」「エコ・チャレンジ」



エコ・チャレンジ

パルシステムが定める「削減目標農薬」や除草剤、土壌くん蒸剤を使わず、化学合成農薬と化学肥料を各都道府県が定めた慣行栽培基準の1/2以下に減らして栽培した農作物。



コア・フード

有機JAS認証を取得した「有機農産物」、またはそれに準ずると判断された農産物。化学合成農薬、化学肥料を使わない(※)、パルシステムのトップブランドです。

※有機JAS認証での使用可能資材を除く。

表示なし

「コア・フード」「エコ・チャレンジ」以外の農作物。

「ネオニコチノイド系殺虫剤」の削減

農薬の総量削減をめざし、生産者とともに取り組みを進めています。とくに浸透性と残効性が比較的高いネオニコチノイド系殺虫剤は野生昆虫など生態系への影響と、人の健康への影響が指摘されています。

エコ・チャレンジ基準で定める削減目標農薬(※)

水田農薬(米)	ネオニコチノイド系農薬7種のうち水田用の3剤すべてを含む8種の農薬が対象
非水田農薬(青果)	ネオニコチノイド系農薬1剤を含む8種の農薬が対象

※人の健康と環境への影響の両面から評価。今後も定期的に見直しします。

Report

「ネオニコチノイド系殺虫剤」学習会

ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議理事の水野玲子氏を招き、ネオニコチノイド系殺虫剤(ネオニコ)についての学習会を開催しました。ミツバチ大量死だけでなく、昆虫や野鳥の減少との関連、さらに人にも影響があるという報告が出ているなどのお話がありました。産直産地でもネオニコを使わない生産を広げる、取り組みをしています(9/17)。



放射能対策

乳幼児用食品の検出限界値を1Bq/kgに引き下げ

パルシステムは「放射線の被ばくはできるだけ減らすべき」という考え方にに基づき、食品の残留放射能の自主基準（独自ガイドライン）を設定。特に乳幼児用食品や米、牛乳、飲料など、子どもが口にする機会の多い食品は、2012年から10 Bq/kgの基準でお届けし、その後も段階的に基準を引き下げてきました。2015年度も論議を重ね、自主基準と検出限界値の見直し案を論議し、2016年4月の検出限界値の引き下げにつながりました。



自前の検査センターで放射能の精密検査を実施

※放射能検査の結果はホームページ（毎週更新）などでお知らせしています。

照射食品の反対運動

パルシステム東京は「照射食品反対連絡会」に参加し、行政との懇談、調査活動などを行っています。しかし、放射線の照射食品拡大への動きや、TPP加入により照射食品の実績のある国からの輸入拡大など、予断を許さない状況となっています。パルシステム東京では意見書の提出や「照射食品反対連絡会」のリーフレット配付など、今後も照射食品反対の活動を進めます。

パルシステムの商品づくり

食品添加物削減

パルシステムでは食品添加物の使用に関しても厳しい独自基準を設けています。また、独自基準で使用を認める物質でも、できるだけ使用しない、使用を減らすなど厳しく運用。安易に食品添加物に頼らず、素材を吟味し、できるだけ本来の作り方に沿った製造法を取っています。



国産のフレッシュな冷蔵肉を使い、亜硝酸塩やリン酸塩は不使用

パルシステム独自ガイドライン （自主基準）		国の規格基準	
水、飲料、牛乳、乳製品、 米、乳幼児用食品	10	水、飲料茶	10
		乳児用食品、 牛乳	50
青果類（しいたけ類を除く）、 肉類、卵、魚介類、 海藻類、その他食品	25	一般食品	100
しいたけ	100		

単位：Bq/kg（セシウム134,137の合計）（2014年6月改定）

乳幼児用食品の検出限界値の推移				
開始時 2011年	2012年2月	2014年6月	2016年4月	
10Bq/kg	5Bq/kg	3Bq/kg	1Bq/kg	

memo 「照射食品」とは

食品や農産物に放射線を照射する技術を食品照射といい、放射線を照射した食品を照射食品と呼びます。日本ではジャガイモの発芽防止に食品照射が認められています。



※写真はイメージ

パルシステムの商品づくり
7つの約束

1. 作り手と「顔の見える関係」を築き、信頼から生み出された商品をお届けします。
2. 食の基盤となる農を守るためにも国産を優先します。
3. 環境に配慮し、持続できる食生産のあり方を追求します。
4. 化学調味料不使用で、豊かな味覚を育みます。
5. 遺伝子組換えに「NO!」と言います。
6. 厳選した素材を使い、添加物にはできるだけ頼りません。
7. 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします。

ていげん
トランス脂肪酸の逡減

摂り過ぎると悪玉コレステロールを増やすといわれるトランス脂肪酸。脂質を多く摂取する諸外国では食品への表示義務や含有量の規制が実施されています。パルシステムでは「健康リスクが懸念されるものについてはできるだけ摂取量を減らすべき」という考えのもと、2008年頃から食品に含まれるトランス脂肪酸の逡減に取り組み、比較的含有量の多かったマーガリンも1%にまで低減しました。今後はさらに菓子類などでもトランス脂肪酸含有量の逡減を進めます。

対象となる食品	取り組み内容
『毎日のマーガリン』	製造方法や原料を何度も見直し、 約1g/100g以下まで低減
『食パンスライス』	バターやマーガリンの配分も見直し、 約0.1g/100gまで低減
菓子類など	順次、含有量の低減に取り組み



遺伝子組み換えに「NO!」

パルシステムでは遺伝子組み換え作物および食品に反対する立場から、プライベートブランド商品での不使用を追求しています。2015年5月、北海道へ遺伝子組み換え作物の圃場試験実施を不許可にするよう申し入れ書を提出しました。また、「遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン」の呼びかけによる遺伝子組み換え表示の改善を求める署名に取り組み、2,207筆の署名を集めました。引き続き遺伝子組み換え反対の取り組みを進めるとともに、遺伝子組み換えの問題点を伝えていきます。

memo 「遺伝子組み換え」とは

おもに除草剤への耐性や虫を殺す性質をもたせる目的で、特定の遺伝子を作物に組み込む技術。トウモロコシ、大豆、菜種などの作物は遺伝子組み換え品種の作付けが増え続け、アメリカでは約9割のシェアを占めます。日本では現在商業栽培はされていないものの、これらの作物の多くを輸入に頼っているため、多くの食品の原料として気付かないうちに口にしているのが現状です。遺伝子組み換えは安全性や自然界への影響が危惧されるほか、一部の多国籍企業による種子の独占も懸念されています。



※写真はイメージ

Report

映画『パパ、遺伝子組み換えってなあに?』上映会

遺伝子組み換え作物の問題点についてわかりやすく伝えるアメリカのドキュメンタリー映画の上映会を開催し、約200人が参加しました。上映の合間には、パルシステムのプライベートブランド商品『圧搾一番しぼり菜種油』を作るメーカーと、原料となる非遺伝子組み換え菜種を作る生産者から取り組みについてお話しいただきました。（10/28、牛込筆筈区民ホール）



非遺伝子組み換え菜種について説明するオーストラリア・カンガルー島の生産者

2. 商品の価値を伝える

パルシステムグループ全体で「ほんもの」の商品を選ぶことで、社会を変えようという取り組みを展開しています。パルシステム東京は生産者やメーカーを招く学習会や産地見学などを開催し、組合員と作り手をつなぐ役割を果たしています。

「ほんもの実感!」商品の普及活動

「「ほんもの実感!」くらしづくりアクションとは？」

私たち一人ひとりの「選ぶ」「買う」という行動が社会をつくっています。パルシステムがお届けする「ほんもの」の商品を選ぶことは、社会を変える力になります。また、作り手と食べ手の距離を近づけるため、消費者である組合員が生産者やメーカーと直接ふれあう機会を大切にしています。パルシステム東京では組合員活動や産直講座などに生産者やメーカーを招き、多くの組合員が直接作り手のこだわりや商品づくりの背景などを学んでいます。

「ほんもの実感!」くらしづくりアクションの一例

サンゴの森を育て、美ら海を守るために

海の生き物たちのゆりかごとなり、豊かな生態系をつくるサンゴ。近年、温暖化によって白化が起きるなど、サンゴの荒廃が深刻になっています。パルシステムは恩納村漁協、もずくメーカーの(株)井ゲタ竹内、恩納村とともに、「恩納村美ら海産直協議会」を他生協に先立って設立。『恩納村もずく』など商品の売上げの一部を「サンゴの森づくり」に役立てるしくみを作っています。サンゴの植え付けはもずくだけでなく、多様な生命が息づく環境を育むことにつながります。



育ったサンゴから産卵



恩納村もずく



Action1

「ほんもの」の価値を知り、
一人ひとりが選択しよう!

Action2

「ほんもの」をつくる生産者・メーカーと
会おう、話そう!

Action3

「ほんもの」をおいしくムダなく
使いこなそう!

Report 1

生産者と話して試食してさばの旨さを知ろう!

カタログでおなじみの『さばのみそ煮』『さばのみぞれ煮』の開発物語やこだわりの製法を学びました。講師は千葉漁連の宮地さんと(株)ゆう屋の榎本さん。みぞれ煮に使う大根を国産にするための話を聞き、企業努力が伝わり脱帽、おいしさの理由がわかったなどの感想が。(茶々ネット委員会／立川アイム)



Report 2

森と川が育む野村の海の幸で浜の母さん料理教室

森と川を元気にすることで、海が元気になる「資源管理型漁業」を実践する北海道野村漁協の女性部が講師となって開催される料理教室。ほたて貝を殻からはずし、手の平からはみ出るほどのほたてをお刺身に。アルミ箔に包んだ「ミニちゃんちゃん焼き」にも挑戦。こだわりの海の幸を堪能しました。(パルシステム東京 辰巳ビル)



食育活動

「パルシステム東京が考える食育」

パルシステム東京の食育政策では「ともに作り、ともに食べる～一人ひとりがつながり、いのちをはぐみ、生きる力を高めます」を目標として食育を進めることを定めています。食育の取り組みをすべての組合員、そして地域へ、子どもから高齢者まで広げ、いのちの源である食を大切にすることや、自ら生きる力を高めることをめざします。

「食育リーダー養成講座」

パルシステム東京の食育を広げるため組合員による「食育リーダー」を養成し、さまざまな食育出前講座を開催しています。親子対象企画では保護者が見守る中、実際に子どもが食材を切ったり材料を混ぜるなどの調理を学べ、大人を対象とした食育講座では“お米＋汁二菜”の日本型食生活の良さを伝えています。

2015年度はPLA(パルシステムライフアシスタント)、食育リーダーが「お米の出前授業(P.18参照)」へサブコーチとして参加協力もしました。パルシステムが進める日本の農業を守る取り組み、和食を中心とする食育、地域へ社会貢献を果たす取り組みを行っています。



多くの食育リーダーを養成



食育リーダーの食育講座「パルシステムの牛乳とバター作り体験」



食育リーダーの食育講座「春のイタリアンおもてなし」

組合員による商品開発

組合員の“ほしい”を組合員がプロデュースする商品開発チーム。

2015年度はパルシステム東京組合員の商品開発協力として中濃ソースの開発に取り組みました。メンバーと論議を重ね、産直原料を使用し、食品添加物はできるだけ少なくすることを追求しました。メーカー((株)ポールスタア／東京都東村山市)での試作を繰り返し、少人数のくらしにも使いやすく、大人も満足な『産直野菜と果物の中濃ソース』が完成しました。



3. 食料自給力の向上をめざして

TPPに代表される経済優先の流れの中で、食を海外に依存する風潮がますます強まっています。パルシステム東京はTPPに反対し、国産の食べ物を大切にする取り組みを続けています。

TPP反対運動

パルシステム東京では、TPP（環太平洋経済連携協定）が、日本の農林水産業、食料安全保障、食の安全に対して重大な影響を与えると予想されることから、TPPに反対しています。

TPP学習会開催

食の安全だけでなく、暮らし全体に大きな影響を与えるTPPに反対するため、さまざまな切り口での講演会を開催し、組合員にTPPの危うさを訴えました。

2016年2月には学習会「TPP交渉の行方～子どもたちの未来のために、今、私たちがすべきこと～」を開催。国際連帯組織「サード・ワールド・ネットワーク」のサーニャ・リードスミス氏を講師に、ISDS条項を中心に協定文案に書かれている条項の落とし穴や、米国の自由貿易協定に関する戦略などについてわかりやすく解説していただきました。



TPPをテーマにした組合員広報



「TPP交渉差止・違憲訴訟の会」パンフレット



TPPへの反対デモの様子(12/20、新宿駅前)

他団体との連携

パルシステム東京が2015年1月に賛同した「TPP交渉差止・違憲訴訟の会」をはじめ、TPP反対を進める他団体と連携し、組合員とともにTPP交渉参加への反対を訴えました。

米づくりの体験実習「お米の出前授業」

お米の出前授業

2015年度も教育機関からの要請に応え、106校でのべ220回、7,560人の児童（都内小学5年生の7.8%）にお米の出前授業を行いました。バケツ稲などで日本人の主食であるお米の大切さを学ぶ出前授業を2010年度から継続実施しています。

参加した職員の声

まず驚かされたのは、子どもたちの食への関心の高さ。子どもの頃の私は、自宅で食べているお米の銘柄など把握していませんでしたが、多くの生徒がすらすらと答えていました。その一方で試食後の感想を述べる際、周りに流されてしまっている子の姿も見受けられました。おいしいものをおいしいと自信を持って言える、そして良いと思うものをしっかり選べる、そんな力を出前授業をきっかけに養ってほしいです。



板橋センター供給リーダー 池部 力

産地交流

組合員と産地を結ぶ活動

組合員が実際に産地を訪れる交流は、日本の農業や産直農産物に対する理解をより深めます。多くの組合員がカタログでおなじみの産地や、パルシステム東京のコア産地（※）で、米づくりや野菜づくりなどの農作業を体験しています。年間を通して種まきから草取り、収穫までの体験ができる産地交流も企画・開催し、「本当の顔の見える関係」を作り出しています。

※正式には「コア産直提携産地」といい、多くの産地の中でもパルシステム東京が特に交流を深めている産地のこと。「食料と農業に関する基本協定」を締結し、商品のやり取りだけでなく、生産者と消費者の交流にも力を入れている産地です。

Report 1

うなかみの大地deもももぐ野菜づくり

千葉県旭市の（株）うなかみの大地の提携圃場で5月の植え付けから、7月の収穫まで3回に渡ってトウモロコシ、枝豆の農作業を体験。企画に参加した組合員からは「子どもたちにも自分で汗をかくて収穫までできたことは良い経験になったと思います」、「産地の方の苦勞を知り、改めてありがたさを感じました」などの感想が寄せられました。



Report 2

米沢郷スタディツアー

飼料価格高騰や加工工場変更などによって2015年に値上げを余儀なくされた米沢郷鶏肉。商品と産地を巡る状況に関して組合員の理解を深めるために開催された米沢郷スタディツアーでは、耕畜連携の生産やBMW技術、抗生物質不使用、遺伝子組み換え原料不使用、国産飼料追求、農業削減などの長年のこだわりを確認し、参加者からは「農業と畜産が地域の中であって、初めて資源循環が成り立つことを実感した」などの感想がありました。また、各エリアから選出された組合員が参加し、それぞれのエリアや委員会で視察内容の報告を行いました。（9/12、米沢郷牧場）



土の中のバクテリア(B)、石のミネラル(M)、水(W=ウォーター)で、家畜の糞尿などの汚水を浄化するBMW技術。鶏糞の堆肥づくりにも活用され、ハエや悪臭はほとんどない。

水産資源の確保

パルシステムでは獲るだけの漁業から、育てる漁業に視点を向けた取り組みを進めています。

2002年から親うなぎを放流する事業を取り組んできた大隅地区養まん漁業協同組合とパルシステム連合会は2013年に「大隅うなぎ資源回復協議会」を設立し、資源対策に多角的に取り組んでいます。

2015年9月には組合員からの支援金を活用して「放流モニタリング事業」を立ち上げました。今後も行政や研究者と連携した資源回復活動に取り組んでいきます。

大隅うなぎ資源回復協議会へのカンパ

●2015年度実績580万3,115円が寄せられました（パルシステムグループ実績）。

※カンパは利用賦課金（うなぎを使った対象商品1パックにつき10円をパルシステムから贈呈）と組合員のポイントカンパの合計



東京大学で開催されたシンポジウムにもパネルディスカッションに登場



中央大学海部健三准教授を招いて開催された「ウナギの現状と今後の課題を考える」学習会(6/18)

地球環境



次世代へつなぐ社会のために



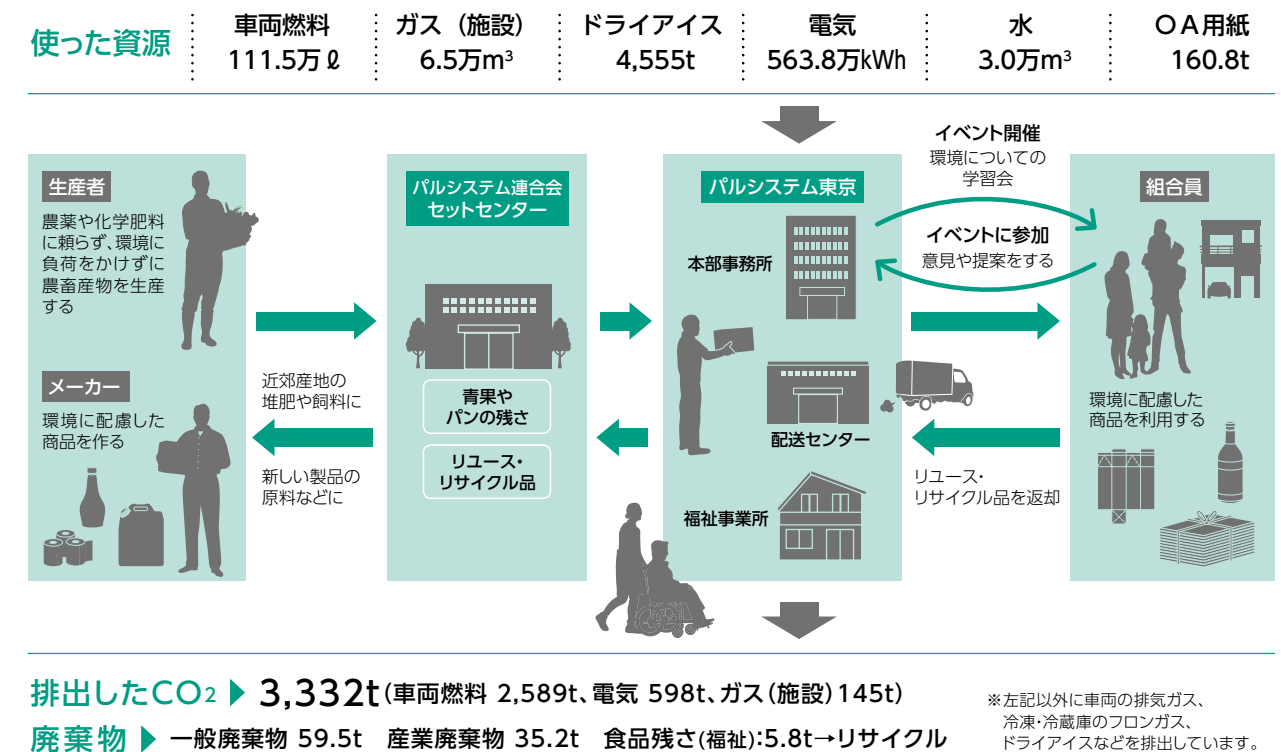
原発事故による放射能問題、地球温暖化や資源の枯渇、
生物多様性の喪失やプラスチックごみによる海洋汚染…
くらしを取り巻く深刻な環境問題の数々。
パルシステム東京は原発のない社会づくりをめざしながら、
環境に配慮したくらし方を組合員に提案しています。

1. 地球温暖化を防ぐために

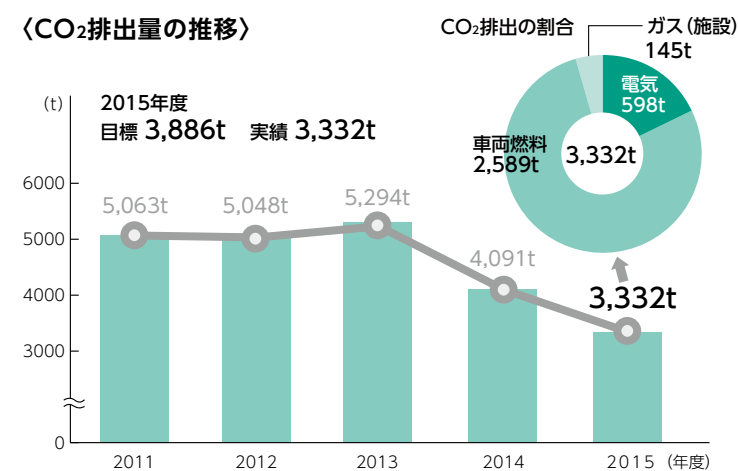
世界各地で温暖化が原因と見られる異常気象が頻発しています。
パルシステム東京は「地球温暖化対策の推進に関する法律」などに沿って、
再生可能エネルギーへの切り替えや省エネ設備の導入などの具体的なCO₂削減を進めます。

CO₂排出量の削減

2015年度は排出量を前年度比95%に抑える目標を立てて取り組んだ結果、CO₂排出量は3,332tと大幅に削減(前年度比81.5%)。事業で使用する電力を再生可能エネルギーを中心にしたエネルギーへ切り替えた効果が現れました。



〈CO₂排出量の推移〉



再生可能エネルギーの利用拡大で大幅削減

環境方針にそって再生可能エネルギー拡大をすすめた結果、2014年度の再エネ率は79.3%となりました。このため2015年度の電気CO₂実排出係数が、2014年度の1/2になり(実排出係数:0.246kg-CO₂/kWh→0.106kg-CO₂/kWh)、CO₂排出量の大幅削減につながりました。
一方、組合員数の増加に伴い、車両燃料の使用量は増加が続いています。配送ルート効率化など、引き続き使用量の削減を検討していきます。

※東電の電力を使用すると、実排出係数は0.505kg-CO₂/kWh

2. 一人ひとりの暮らし方を見直す

毎日なにげなく使う洗剤や、家庭から出されるゴミ…

一人ひとりの暮らし方次第で、環境問題の多くを改善できる可能性があります。

パルシステム東京ではさまざまな機会を通して、暮らしを見直す提案をしています。

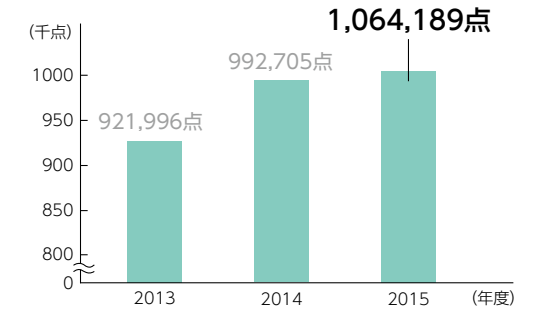
有害化学物質の削減

石けんの利用普及

重曹、酸素系漂白剤、クエン酸などの石けん関連商品を、汚れ落としやお掃除に活用する自然派おそうじの学習会を継続的に開催。合成洗剤の問題点にも触れながら石けんの良さを広めています。

2015年度も石けんの供給点数は約106万点と伸長(前年度比107.2%)。組合員が開発に協力した石けん商品ラインアップも好評です。

●石けんの供給実績



Report 1

親子でわくわく石けん教室

太陽油脂(株)の方を講師に「食用油にアルカリを加えると石けんがで、石けんにお酢を加えると油に戻る」「海に石けんが流れたらどうなる?」など、実験をしながら楽しく石けんの性質や安全性、合成洗剤との違いなどを学び、親子で手作り石けんを楽しみました。



Report 2

親子で石けん工場見学へ

松山油脂(株)河口湖工場の親子見学会を実施。清潔で、手作り感あふれる工場を見学し、石けん素地を使って富士山石けん作りに挑戦。バスの中では石けんのDVDやクイズで、楽しみながら理解を深めました。



Report 3

石けん体験を銀座の美容室で

新企画「銀座の美容室でシャンプー＆ブロー」を太陽油脂(株)の協力で開催。石けんシャンプーの特徴などの説明と、プロの美容師によるシャンプー＆ブロー体験で、肌にも環境にもやさしい石けんシャンプーのおしゃれで上手な使い方を実感していただきました。



有害化学物質の真実を伝える

身近にある化学物質の汚染状況と、人の健康や環境に与える影響を学ぶ連続講座を開催。東京農工大学の高田秀重教授を講師に、プラスチック廃棄物が環境中に流れ込みマイクロプラスチックとなって海中や砂に残り、魚や貝からも発見されていることや、プラスチックが有害物質を吸着し海水を漂いながら再汚染するメカニズムなどについてご講演いただきました。



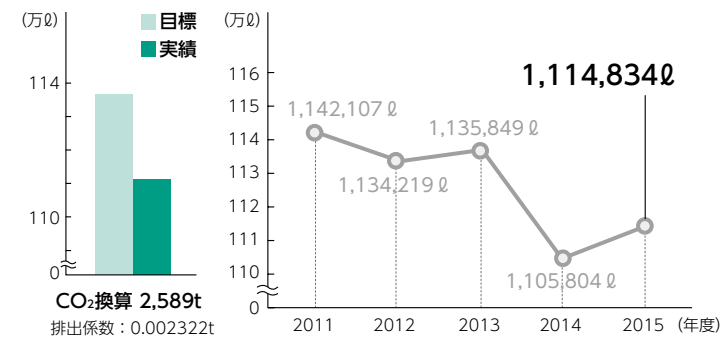
第1回のテーマは「プラスチックが媒介する有害化学物質の海洋生物への曝露と移行」。



第2回「内分泌かく乱物質と合成洗剤」では、合成洗剤との関係にも触れられました。

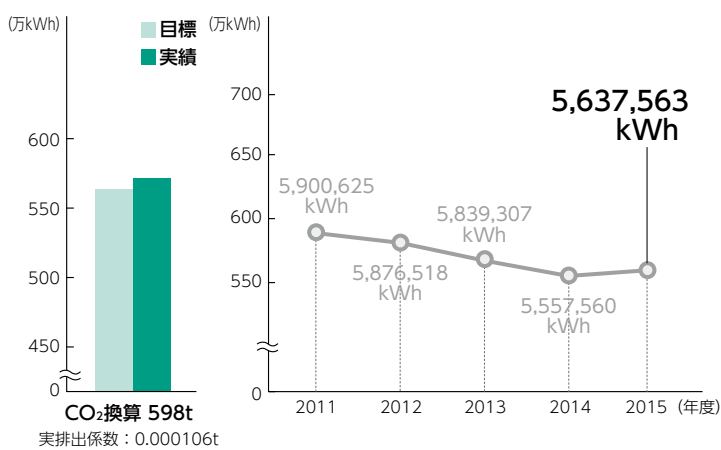
〈2015年度 車両燃料の使用量(ガソリン換算)〉

目標 1,138,979ℓ 実績 1,114,834ℓ



〈2015年度 電気の使用量〉

目標 5,557,560kWh 実績 5,637,563kWh



※再生エネを利用しない場合、CO₂排出量は2,847tになります。

●配送センターの再生可能エネルギー発電状況(年)

大田センター	2,766kWh
多摩センター(自家発電用)	2,856kWh
江戸川センター	1,927kWh

※発電した電気は事務所や廊下の照明などに使用しています。
修理した大田センターの太陽光発電も順調に稼働しています。

ドライブレコーダーの導入でエコドライブを徹底

配送中の事故・違反に備え、状況を確認する手段として全車両にドライブレコーダーを搭載。事故対策以外に、配送員が撮られていることを意識するため、自然に安全運転・エコドライブが身に付き、燃費向上が期待できます。また、池尻センターでは配送支援カーナビの実験導入を実施しました。配送員が代わってもスムーズな配送が可能になり、燃費向上につながっています。



冷凍・冷蔵庫用のLEDを導入

全事業所で残業の抑制や、こまめな消灯を徹底しています。しかし、夏季・冬季のエアコンや加湿器の使用や、少人数の土曜日出勤による電気の使用を抑えることが難しく、目標達成には至りませんでした。LED照明の使用を、事務所以外の冷凍・冷蔵庫に広げたほか、多摩、東村山2センターの冷凍・冷蔵庫を、より環境負荷の低いフロンガスR410A使用機器に替えました。インバーター搭載の最新機器で、電気使用量の削減が期待できます。ただし、今後も空調機器をガスから電気に切り替えていくため、電気使用量は増加傾向になります。特定フロンガスR22を使用しているセンターの機器を最新機器に切り替えることで、電気使用量削減を図る計画です。



細分化スイッチで節電
(八王子センター)



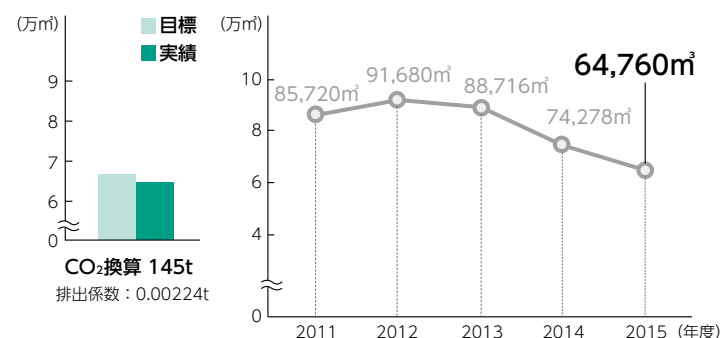
導入された電気自動車
(多摩センター)

入浴サービスで地道な省エネ対策

江戸川センターのガス式エアコンを、電気式に変更。これにより再生可能エネルギーの利用拡大と、環境負荷の低いフロンへの切り替えが進みました。今後は大田・東村山・府中センターも順次変更予定。一方、福祉事業所の利用者増加に伴い、入浴サービスでのガス使用量が増加。シャワーなどのお湯を出し続けず、湯船にお湯を入れたらすぐ入浴を開始するなど徹底。配送センターの夏場のシャワー利用でも、同様の注意喚起を行いました。

〈2015年度 ガス(施設)の使用量(都市ガス換算)〉

目標 66,850m³ 実績 64,760m³



くらしの中の省エネ

家庭の省エネ診断

東京都認定「家庭の省エネ診断員」の資格を持つ組合員アドバイザー*が組合員宅を訪問し、それぞれにあった省エネアドバイスを行っています。各家庭での省エネ意識は定着しつつあるようですが、電気・ガス代の値上がりで「光熱費が思うように下らない」という声も。組合員一人ひとりの経験が、多くの組合員に役立つ情報につながります。今後も積極的な参加のお願いと、情報提供に努めていきます。

- 訪問診断 42件 (2015年4月～2016年3月)
- 省エネアドバイザー 登録48人 (2016年3月時点)

*パルシステム東京は「東京都家庭の省エネアドバイザー制度」の統括団体として、組合員の省エネアドバイザーを養成しています。



診断員が小型電力測定器で、消費電力量データを検証。テレビなど家電を省エネモードに設定するなど、持続的な電力量カットにつなげます。

「省エネ講座」の開催

組合員対象の省エネ出前講座を開催するほか、省エネアドバイザーを講師として、地域の環境イベントに派遣し、省エネ講座や省エネアドバイスをしています。

2015年度の活動内容

- 「パルシステム東京家庭の省エネアドバイス」のブースを出展
(「地球環境フェア2015」足立区)
- パルシステム東京の各委員会の省エネ講座へ講師派遣
- 地域で省エネ講座(府中市、中央区)
- 省エネアドバイザー研修(空調機器体験見学会／新宿フーハ東京)



省エネアドバイザーが電気代節約のコツをアドバイス(家計活動委員会、6/19)

環境キャンペーン月間

毎年、6～7月を環境キャンペーン月間として、各種広報誌で環境関連企画への参加呼びかけを強化しています。2015年度は「今、私たちにできること」をキャッチコピーに、親子で参加できる企画や石けんサンプルの配付、在宅で気軽にできる調査や商品モニターアンケートなど、さまざまな取り組みを多面的に展開しました。また、配送センターでも石けん出前学習講座を開催するなど、職員向けの企画も実施しました。



配送担当も石けん利用のコツや悩み解決法などを学習(板橋センター)



毎年6月と12月、全国一斉にNO₂測定で身近な地域の空気汚染を見える化。

〈環境企画開催と環境活動支援〉

- 組合員による二酸化窒素(NO₂)測定

6月4日(木)～6月5日(金)測定カプセル
申込数866 回収数765 回収率88.3%

12月3日(木)～12月4日(金)測定カプセル
申込数821 回収数710 回収率86.5%

- 石けん関連商品サンプルの配付

委員会企画や地域活動で、石けんサンプル、ミニリーフレット、アンケートなどを配付。サンプル注文数 167委員会 20,465点

- 赤ちゃん石けんプレゼント

赤ちゃんが誕生した組合員やその家族に、石けん商品をプレゼントする。 応募数544人

- 環境出前講座への講師派遣(通年)

石けん講座①石けんについての基本知識
②石けんの上手な使い方
③自然派おそうじ
18企画(13委員会、3センター、供給長会議、営業長会議)
省エネ講座 14企画(14委員会)
エネルギー政策講座 ①エネルギー政策
②新電力事業の取り組み
10企画(9委員会、1センター)

合計 42企画 参加455人

3Rで廃棄物削減

資源を回収

1年で東京ドーム121杯分ともいわれる日本のごみ。処理場の寿命はあと20年を切っているともいわれます。実は日本のごみの約65%が家庭から出る生活ごみで、容器包装はその半分以上を占めています。

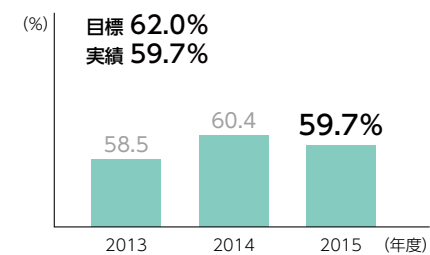
パルシステム東京は容器の軽量化や簡易包装、リユース・リサイクルできる容器への変更など、組合員や取引先の理解と協力を得ながら3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取り組みを長年継続しています。2015年4月からは長年組合員からの要望も多かった産直米の米袋(資源プラスチック)の回収をスタートしました。

2015年度の回収率は24.7%で、回収後は建築資材などにリサイクルされます。また、2014年度から始まったお料理セットトレイの回収率は53.4%(前年度実績は43.9%)となり、供給量の増加と同時に回収率も向上しました。引き続き、既存の回収資源とともに組合員の認知度向上に取り組みます。



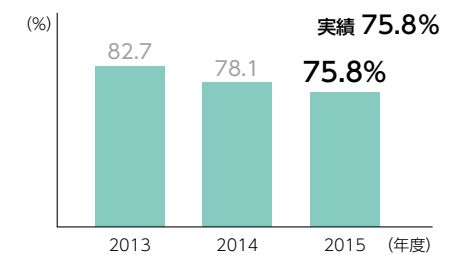
〈2015年度回収率の推移〉

- リユースびん



リユースびんの種類の増加に伴い、認知度アップがますます課題となっています。

- 飲料用紙パック



トイレットペーパーなどの原料として認知され、回収率は比較的高めですが、年々低下傾向に。

組合員への情報提供

3Rの取り組みを組合員へ周知するために、廃棄物削減に関連した情報提供を継続的に実施。2015年度もごみを減らすきっかけとなるよう、学習会や見学会を開催しました。

Report 1

「緊急集会! どうなっているの? 容リ法改正」

改正案が提案されないまま4年が経過する「容器包装リサイクル法」の現状を、「容器包装の3Rをすすめる全国ネットワーク」副運営委員長の中井八千代氏が解説。使い捨てプラスチック容器を使用している企業やそれを選択している消費者が負担するように、処理費用を商品価格に入れ込む拡大生産者責任の徹底が、廃棄物削減の切り札になることを改めて確認しました。



Report 2

紙パックリサイクル工場 マスコー製紙(株)の見学

『リ・さいくりんぐ』シリーズのトイレットペーパー・ティッシュペーパーを生産するマスコー製紙、富士宮工場(静岡県)の見学会を開催。回収された牛乳パックや紙パックが、商品化される工程を見学しました。工場の担当者からは「紙パックの回収量が低迷しています。原料不足は大きな問題ですので、紙パックの回収に、ぜひ協力してください」との要請がありました。



3. 身近な自然を守る

私たちのくらしは多様な生き物が関わり合う、生態系からの恵みに支えられています。
生物多様性保全と、地球温暖化防止や有害化学物質の削減などの環境活動は、
深くつながっているという視点で、他団体とも連携した取り組みや学習の場を広げています。

生物多様性保全の取り組み

生き物モニタリング調査

2009年から続く市民参加のモニタリング調査で、チョウの分布と気候・環境・人との関係を調べます。2015年度から「中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト・生き物モニタリング調査」に名称変更しました。
初年度からの合計確認種数は89種。1990年～2006年に都本土部で記録された種(109種)の84%が確認され、市民参加型の調査が専門家の調査に引けをとらない精度の高さであることを示しています。

- 登録者数のべ893人
- 報告件数32,540件(2009年～2015年度累計)
- 2015年度
- 登録者数27人
- 報告件数3,414件



戸山公園(新宿区)で生き物モニタリングを親子で体験できる「宿題パッチリ! 夏休み子ども生きモノ」を開催(8/10、21人)。

「侵略的外来種」の駆除活動

「侵略的外来種」とは、強い繁殖力で地域の生態系を破壊する植物や動物をいいます。地域の生態系や日本特有の種を守るため、地元の外来種駆除団体などと連携して駆除活動を行っています。

2015年度の活動内容

- 平井川オオバクサの駆除とカヤネズミの保護(6/7、14人)
- 多摩川アレチウリの駆除と在来植物の保全(6/28、13人)
- 光が丘セイタカアワダチソウの駆除と草原保全(12/6、50人)
- 侵略的外来種駆除活動団体報告交流会「井の頭池かいばり まるわかり!」(2/27、55人)



かいばり中の井の頭池、池底での生き物観察。

東京の緑を守る

東京に残された緑を守り、広げる取り組みです。2015年度はビルの都心に豊かな緑を保つ皇居東御苑をボランティアガイドとともに訪ねる企画を開催(12/15、62人)。
昭和43年から一般公開された庭園内の多様な樹木、草花の植物について解説をいただきながら散策。多摩丘陵から移植された昔懐かしい雑木林の豊かな自然や風景に感動する参加者の姿も見られました。



都心にある皇居に、江戸時代の果樹や武蔵野の雑木林が再現されていることを知る。

Report

講演会「遺伝子組み換えと生物多様性」

生物多様性保全の取り組みの特別企画として、10月23日「市民バイオテクノロジー情報室」の代表、天笠啓祐氏を講師に招き、遺伝子組み換えについて学習しました(参加55人)。午後は委員会連携企画で、「タネが危ない!」をテーマに野口種苗研究所代表の野口勲氏による学習会を開催。遺伝子組み換えと生物多様性保全について学びました(参加76人)。



森林保全の取り組み

森林経済循環のしくみを模索

パルシステム東京は地域の問題として、東京山間部の森林の現状と役割を知り、東京の4割を占める多摩地域の森林の活性化を進める取り組みを行っています。2015年度も多摩産材の割り箸供給を行いました。また、間伐材の活用や林業における雇用の創出に向けて、新しい森林経済循環のしくみを模索するため、おもちゃや弁当箱などのワークショップを検討したものの、コスト面で実現できませんでした。今後も多摩産材のヘラや箸など、調査研究を続けます。



日の出町にある社会福祉法人「山の子の家」で製造・検品・梱包される、東京の杉を使ったエコで安全な割り箸。
●5月:青梅センター 100膳セット32組、10膳セット17組
12月:全17センター 10膳セット2,236組

ウッドスタート宣言

国土の3分の2が森林に覆われているが、木材の自給率が30%を割って、森林荒廃が進んでいる日本。パルシステム東京は2015年4月、日本の森林資源の保全と循環型社会の構築を目指して、東京おもちゃ美術館(認定NPO法人日本グッド・トイ委員会)が呼びかける「ウッドスタート宣言」に署名・調印しました。

同年1月に先だってウッドスタート宣言を行ったパルシ



テム連合会とともに、国産木材を使用した商品の開発・供給のほか、赤ちゃんが誕生した職員家庭への木製おもちゃの贈呈など、国産木材の利用推進に取り組んでいます。



杉の間伐材を使ったパルシステムオリジナルのPB商品「どっちな積み木 2段」は、杉の素材感を大切にしたいシンプルで愛らしいデザインが特徴。



パルシステム東京の直営保育園「ばる★キッズ府中」も東京おもちゃ美術館の監修のもと内装を木質化し、木育に積極的に取り組んでいます。



みんなの平和な明日のために



子育て、介護、防災など、地域には一人では解決が難しい問題が山積しています。

パルシステム東京は地域を活性化させるため、

人と人をつなぐ、さまざまな取り組みを続けています。

食の安全も、豊かな環境も、人々の平穏な暮らしがあってこそです。

パルシステム東京は平和な暮らしを求める活動に積極的に取り組んでいます。

1. 地域とつながる

地域のつながりが薄れる中で、組合員活動の広がりには貴重な存在です。

人と人のつながり、ネットワークが生まれ、地域の活性化につながることを期待し、

パルシステム東京は組合員の活動をさまざまな方法で支援しています。

また、継続的な市民団体とのつながりから、新しい可能性が生まれています。

組合員活動

組合員活動とは？

組合員同士が身近な地域やテーマで自主・自発的に学び合う「委員会」を中心に、食の安全や環境をテーマにした企画から、くらしを豊かにする文化的活動まで、多彩な活動に多くの組合員が参加しています。若い世代の組合員が気軽に多く参加しやすい土曜・日曜や祝日、夜間の企画も増えています。土日・祝日の企画への参加者からは「休日だから子どもと参加できて良かった」などの声が寄せられました。



「親子ソーセージ作り」
8月21日／のびのび下町っ子委員会



「レクティ講習会 メイクアップレッスン」
7月14日／亀有委員会

Report 1

NO₂測定報告会

長年、地域の大気汚染測定を定点観測している委員会の報告会に、今回は国分寺市立第五小学校のPTA役員も参加。小学校の脇を通る都道328号線の完成（2016年3月）によって大幅な交通量の増加が見込まれるため、環境汚染による健康被害や通学路の安全性など、活発な意見交換がありました。（1月21日／西国分寺委員会）

※二酸化窒素（NO₂）は光化学スモッグの原因となるオキシダントやPM2.5などの空気の汚れを知る指標



Report 2

マイナンバー早分かり講座

足立区より個人番号カード交付担当課長を講師としてお招きし、マイナンバーについてわかりやすく解説していただきました。社会保障や税、災害対策の分野での活用、所得の明確化や生活保護の見落としを防げることなどを聞き、熱心な質疑からは参加者の関心の高さがうかがえました。（2月25日／ほのぼの福祉委員会）



組合員活動をサポート

保育サービス

活動に参加中の組合員のお子さん（1歳半～就学前）を、研修を修了した組合員の保育スタッフが保育。お子さんが安全に楽しく過ごせるよう心掛けています。



人材バンク

さまざまな資格やスキルを持った組合員が講師として登録。学習会などの講師として多くの組合員が活躍。



委員会活動をサポート

活動をサポートするエリア・コーディネーターを配置し、各委員会の希望に合わせたサポートを実施。また委員会活動に役立つ講座や学習会を実施したり、活動情報誌を発行。

市民活動助成基金

市民活動を資金面で支援

組合員が商品やサービスを利用することで生まれた剰余金をもとに、誰もが安心して暮らしていける社会づくりをめざして活動している草の根の市民団体を資金面で支援しています。

また、団体間連携など助成終了後の連携づくりも進めました。助成を通して団体が取り組んでいる顕在化していない社会課題について組合員や社会の認知を広げることにもつながっています。

市民活動助成基金 実績

2015年度
12団体 480万円

1998～2015年度(累計)
のべ205団体 約8,240万円



助成団体と連携した取り組み

NPO法人ユースコミュニティ

大田区からの受託事業で、さまざまな理由で十分な学習の機会が得られない小中学生を対象とした学習支援活動「自由塾」を開校。パルシステム東京は2014年10月から毎週1回、大田センター会議室を提供しています。クリスマス会での交流などもあります。



写真提供:パルシステム連合会発行「地域と暮らしの課題 解決マガジン」のんびる」2015年7月号

NPO法人えがおさんさん

新宿区社会福祉協議会と連携して、障がいを持つお子さんをお持ちのご家族へのレスパイトケア活動を実施。パルシステム東京は毎月1回、新宿本部施設を貸し出し、活動の場の確保に苦心していた同団体の継続的な活動に寄与しました。



写真提供:NPO法人えがおさんさん

一般社団法人Colabo

さまざまな事情で家庭での居場所を失った少女たちのための一時シェルターを開設し、支援を行う団体。9月の立川センターまつりにも出展。2015年9月以降パルシステム東京から定期的な食材提供を行い、今後の連携強化も検討しています。



新しい参加を広げる取り組み

たすけあい活動助成金による取り組み

共済事業の剰余の一部を活用してよりよい地域社会の構築に向けて、組合員が自主的に行う子育て支援や福祉助け合い活動、ライフプランニング活動、健康維持活動を助成という形でサポートしています。

Report

パルシステム東京映画祭

若い世代やこれまで企画への参加が少なかった組合員へ、映像を通してパルシステム東京の理念や政策をわかりやすく伝えていくことを目的に、2014年度も好評だったパルシステム東京映画祭を、2015年11月28日にたましんRISURUホールで開催。4作品をのべ約800人が鑑賞しました。

※パルシステム共済連たすけあい活動助成金 助成企画



〈上映映画〉

- 『小さき声のカノン』
- 『未来の食卓』
- 『バベルの学校』
- 『沖縄 うりずんの雨』



地域で活躍する人材を発掘

自分の「好き」を仕事にしたい、特技を生かして起業の一步を踏み出したいという

組合員の一步を応援する連続講座「学んで実践! プチマルシェ」を23人の組合員が受講しました。

Report

わたしのマルシェ

NPO法人Mystyle@代表の竹内千寿恵氏から起業の一步を踏み出すスキルを連続講座で学んだ仲間たちが、実践編として自ら作り上げた企画「わたしのマルシェ」を2015年12月に新宿本部で開催。会場ではアクセサリーや雑貨などの販売、リラクゼーションなどの体験コーナー、ランチを提供するカフェコーナーなど146人が来場されました。

※パルシステム共済連たすけあい活動助成金 助成企画



2. 平和なくらしを守るために

平和で公正な社会の実現に向けて、2014年に「パルシステム東京平和政策」を策定しました。
「平和な共生の世界をめざします」「一人ひとりが尊重され、いのちを大切にする社会づくりをすすめます」
「次世代が希望をもてる地域をつくります」を基本に、平和を願う活動を続けています。

戦争の記憶を継承する活動

平和月間

パルシステム東京は被爆や戦争体験の継承をはじめ、核兵器廃絶活動や難民支援など幅広い平和活動を組合員とともに取り組んできました。2015年は戦後70年の節目の年。年間を通じて、組合員に平和について考えるきっかけを提供する平和企画を実施しました。

特に2015年8月～10月を「パルシステム東京平和月間～YES PEACE! 戦後70年のつどい～」とし、組合員向け広報誌の平和企画特集号でも、組合員活動における平和企画との共同広報など、平和行動のアピールを強化しました。



Report

みんなde★平和ミュージアム

身近でできる平和活動として、作品を共有し、平和を想う力を広げる取り組みを行いました。組合員の身近な場所の「平和」に関するモノ・コトを写真やイラストにし、ホームページなどで紹介しました。期間中に456件の写真やイラストなどが寄せられました。



「かぞくのえがひ」(ゆうかさん・8才)



「森」(ひなたさん・12才)



「スックリしあわせ」
(ネルさん・30代)



「平和なせかいでありますように」
(ぶっばーさん・40才)

平和について学ぶ活動

連続平和学習会

組合員一人ひとりが自分のこととして、日本国憲法や安保関連法制などを考えるきっかけの場となるよう、連続平和学習会を開催しました。第1回「平和学習会」(4月22日開催)は、集団的自衛権についての最新情勢を学ぶ学習会を開催。講師に東京新聞論説兼編集委員で、1992年から防衛省付記者を担当している半田滋氏を迎え講演いただき、多くの組合員が参加しました。



貧困・飢餓撲滅活動

平和カンパ

紛争や難病、飢餓などの厳しい状況にある世界の子どもたちに、夢と明日を届けるくらしの中でできる平和活動として「平和カンパ」に取り組んでいます。身近に参加できる国際協力として、多くの組合員が参加する運動に発展しています。



2015年度「平和カンパ」チラシ



紛争の続いたウガンダの子どもの栄養改善事業にも支援
写真提供:ハンガー・フリー・ワールド

平和カンパ 実績

2015年度	7団体 822万4,900円
1996～2015年度(累計)	約1億3,533万円

書き損じハガキなどの回収キャンペーン

家庭でできる国際支援活動として、平和カンパのほかに「身近なモノで国際貢献」できる書き損じハガキなどの回収キャンペーンにも取り組んでいます。2015年度は「NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会」の『ステナイ生活キャンペーン』に協力しました。収益金は「シャプラニール」を通してバングラデシュで家事使用人として働く少女たちへの支援活動(児童労働問題)に使われます。



組合員から寄付された回収物



ステナイ生活キャンペーンの仕分け作業

回収キャンペーン 実績

2015年度(換金額)	1,268万0,283円
-------------	--------------

ピース・カフェ

ピース・カフェは「平和カンパ」などに関わりのある国際協力NGO団体による、組合員向け出前講座です。紛争や飢餓、難民問題などを抱える国の現状を聞きます。その国の料理を一緒に作ったり、民芸品や刺繍の手作り体験を交えたりしながら国際協力への理解を深めます。2015年度も本部企画で4件、組合員活動で25件ものピース・カフェが開催されました。



シャプラニール・バングラデシュのカレー作り体験&トーク

南アジアのカレーやチャイを作りながら、バングラデシュの人びとの暮らしや生活、文化を学び、また支援先であるシャプラニール=市民による海外協力の会の支援活動について知る機会となりました。

3. 被災地の復興を支援する

福島を重点とした東日本大震災被災地への、カンパ、交流会、保養企画、シンポジウムなどや、被災者の体験談・実情を理解する学習会、スタディツアーなどの活動を継続しました。

東日本大震災と原発事故から5年。パルシステム東京は「忘れない」を基本視点に、被災地や被災者に寄り添う支援活動を継続していきます。

また、日本や世界各地で発生する災害による被災者への支援カンパも随時行っています。

被災地のいまを知る

スタディツアー

「3.11を忘れない」を基本視点に、震災と原発事故を風化させないため、そして私たちにできる支援とは何かを考えるきっかけとして開催。組合員と役職員がともに被災地の「今」を見て、聞いて、感じることで、被災者に寄りそった復興支援活動へつなげています。

Report 1

「夏祭り」支援&南三陸スタディツアー

7月25日～26日「宮城県東松島市『夏祭り』支援&スタディツアー」を開催。組合員や役職員など35人が参加しました。2011年から支援を続けている東松島市ひびき工業団地仮設住宅の自治会が、近隣の根古仮設住宅自治会と共催する夏祭りに参加。かき氷、飲料などの販売や、ハンドトリートメントなどの企画ブースの運営と、自治会のお店のお手伝いをしました。また夜には自治会の方々と交流会も開催し、仮設住宅暮らしの現状について耳を傾けました。翌日は南三陸を訪問し、津波で甚大な被害を受けた南三陸町の現状を語り部から伺いながら巡りました。また、復興に向けて努力している現地の方々からのお話も伺いました。これから必要とされる復興支援について考えるツアーとなりました。



Report 2

福島スタディツアー

11月3日～4日「福島スタディツアー」に、組合員や役職員31人が参加しました。ツアーはパルシステム福島の協力を得て開催、福島で活動するNPOをガイドに、2013年のスタディツアーでも訪れた浜風商店街（久ノ浜）や富岡町などを訪問し、復興の現状を視察しました。翌日は小名浜魚市場で水産品の放射能検査場やサンマの水揚げなどを見学し、福島の漁業の置かれている状況を学びました。また、パルシステムの水産メーカー「山菱水産」の小名浜工場を見学し、商品のこだわりや品質などへの理解を深めました。



シンポジウム&学習会

3月5日、東日本大震災復興支援シンポジウム「震災から5年、これから私たちができること」を開催。組合員や役職員など120人が参加しました。宮城・岩手県を中心とした津波の被害に焦点をあて、第1部は津波被害を受けた石巻市の水産加工会社が東京の商店街の支援を受けながら立ち直るまでの姿を描いた絵本『きぼうのかんづめ』に関わる人々を招いたトークセッションと、福島支援カンパ贈呈式、パル未来花基金助成グループの活動紹介。第2部はドキュメンタリー映画『大津波3.11未来への記憶』（制作：NHKメディアテクノロジー）を上映。震災被害を忘れないとともに、市民の力による復興支援の取り組みを共有しました。



被災地を支援する

震災復興支援基金「パル未来花基金」^{ミライカ}

組合員による東日本大震災の復興支援活動を資金面で支援する制度です。募集は4月と10月の年2回、パルシステム東京組合員が代表の3人以上のグループに、年度最大50万円を助成します。

パル未来花基金 実績

2015年度	16団体 400万円
2014～2015年度（累計）	のべ28団体 約627万円



支援カンパ

被災地・被災者支援カンパや各地で起きた異常災害などによる被災者に対し、迅速に情報を入手し、必要な組織支援を進めました。

福島支援カンパ

福島の子どもたちを放射能から守る市民活動団体を支援しています。

汚染の実態を知りたいという親たちの声に応え、通学路や遊び場などの線量を測定し、情報発信する「子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト」



福島支援カンパ 実績

2015年度	6団体 711万3,680円
2012～2015年度（累計）	約3,702万円

ネパール大地震被災者支援カンパ

2015年4月に発生したネパール地震の被災者を支援するための緊急支援カンパをパルシステムグループ全体で取り組みました。カンパ金は現地で支援活動に取り組むNPOなどの団体を通じて被災者支援に役立てられました。

台風18号による大雨水害緊急支援カンパ

2015年9月、関東・東北豪雨の被災者を支援するための緊急支援カンパをパルシステムグループ全体で取り組みました。また、被災者支援活動にのべ18人の職員を派遣しました。

大規模災害支援カンパ 実績

●ネパール大地震被災者支援カンパ	
パルシステム東京	3,965万7,100円
パルシステム(全体)	約1億0,670万円
●台風18号による大雨水害緊急支援カンパ	
パルシステム東京	2,335万7,800円
パルシステム(全体)	約7,245万円

子ども（親子）支援

原発事故による放射能の影響や不安を軽減することを目的に、パルシステム福島の親子と、パルシステム東京の組合員の子どもを対象にした支援活動に取り組んでいます。

福島親子保養企画

3月26日～28日、「春休み!東京でリフレッシュ『パルシステム福島親子保養企画』」を開催。パルシステム福島親子16組42人が参加し、東京観光や平和の森公園フィールドアスレチックなどでパルシステム東京組合員と交流しました。



甲状腺モニター検診

「パルシステム東京子どもの甲状腺モニター検診」に向けたキックオフ学習会を開催。組合員や役職員99人が参加しました。2016年2月、NPO法人いわき市民放射能測定室たらちねの協力を得て甲状腺モニター検診を実施。3歳～17歳までの組合員の子ども66人が受診しました。



人材育成・働く環境づくり

■ワークライフバランスの取り組み

働きやすい環境づくりを目指し、毎月「男女平等参画推進会議」を開催。2015年度は「自己成長のための支援施策」と「女性職員向け配送業務の構築」の2つのテーマで議論を深め、イベント参加サポート制度の促進や資格取得支援、配送ポイントの見直しや女性職員複数配置センターの導入などに取り組みました。



男女平等参画推進会議が発行する「ワークライフバランスニュース」

■女性職員の正規職員登用

女性の管理・監督職を担う層を増やすため、正規職員の女性比率を高めています。2015年度の新卒採用および内部登用の女性比率は33.3%となりました。2016年度は4月1日から施行される「女性活躍推進法」に基づき、「女性の正規職員数を2019年3月31日までに50人に引き上げる」、「毎年の新卒採用のうち、女性比率を50%以上とする」を目標に掲げた「一般事業主行動計画」を策定します。

2015年度の職員数

- パルシステム東京正規職員348人のうち、女性職員は38人
女性管理職は0人(2016年3月末現在)
- 2015年度新卒採用および内部登用18人のうち、女性採用は6人(33.3%)。

■教育・研修プログラム

パルシステム東京の理念・ビジョンの浸透を図り、日常の業務に生かすためにさまざまなプログラムを行っています。

産地研修

2015年度はパルシステム東京独自の産地研修に、委託協力会社社員も対象に加え、青森、秋田、新潟、千葉、茨城、埼玉の6県7産地で実施。のべ157人が参加しました。



■「くるみん」を取得・更新

「一般事業主行動計画」を策定し、少子化対策を計り子育て支援など一定の基準を満たした企業や法人などが厚生労働省によって認定される「くるみん」マークを取得しています。



※パルシステム東京のホームページでも「一般事業主行動計画」、「女性活躍推進法に関する一般事業主行動計画」を公表しています。

■障がい者雇用

障がいをもつ職員が、配送センター、陽だまり、本部内でさまざまな業務を行っています。入協前に、職場体験実習や就職を見据えた実習などを行い、仕事のイメージや職場環境を体験した上で採用。2015年度もご家族や関係者どうしの交流会を行いました。

2015年度の障がい者雇用実績は376人(年間のべ人数)、法定雇用率2.0%をクリアしています。

障がい者雇用人数			
年度	2013	2014	2015
人数	300	337	376

■労働安全衛生の取り組み

安全で働きやすい職場環境を作るため、各事業所で月1回の「安全衛生委員会」を開催。リスクアセスメントや4S(整理・整頓・清掃・清潔)、産業医による職場巡回などの実施により、健康管理および労働災害防止のための改善に努めています。



安全道場2015年度第1号(熱中症ゼロ)



腰痛予防ポスター

■メンタルヘルスに関する取り組み

職員のメンタルヘルスや健康についてのさまざまな相談に、産業カウンセラーと看護師資格を有する産業保健スタッフが対応。専門性を生かし、職員の心と体の健康管理を支えています。

■健康に関する取り組み

定期健康診断(二次診断含む)の実施と、専門家(看護師)によるフォローを行っているほか、インフルエンザ予防接種の励行やノロウイルス感染予防を周知徹底しています。また、日生協健康保険組合の「健康づくり月間」への参加を呼びかけ、健康維持増進に努めています。2015年度は東新宿本部安全衛生委員会の「健康づくり」に関する新たな試みとして、1月20日に「ラクアス寄席としなやかな体づくりのストレッチ♪」を開催。パルシステム連合会・パルシステム共済連からの参加も含め、新宿本部勤務職員54人が、新春の初笑いと、着座のまま手軽にできるストレッチなどでリフレッシュしました。



ラクアス寄席としなやかな体づくりのストレッチ♪

リスクマネジメント

内部統制システムの推進

組合員と社会に信頼される健全な組織体制を整備するために、「内部統制システム基本方針（組織体制の整備と運用を効率的に行うために必要な基本方針）」（2009年12月制定、2015年3月改定）に基づき取り組んでいます。

内部統制システム基本方針の検討

毎年定期的に ①機関設計の見直し ②法改正 ③生協業界の動向 ④業務内容の大幅な変更 ⑤その他事項の項目にそって検討を行っています。

リスクマネジメントシステムの構築

組織の事業活動の中で想定されるリスクを洗い出し、そのリスクに対するマニュアルや規程類の確認を行いました。その上で部署ごとに重要度の高いリスクに対しての対策や計画を策定しました。

財務報告の信頼性確保

財務報告の信頼性確保はもとより、業務の効率化及び「仕事の見える化」を推進するため、決算における業務処理、作業もれを点検するチェックリストの運用を行っています。

内部監査の専門性・信頼性

日本内部監査協会の認定資格である内部監査士の資格を取得した職員が、内部監査の専門性・信頼性の確保のために研修受講等により、監査能力の向上に努めています。

子会社における内部統制

子会社における財務報告の信頼性確保のため、経理処理マニュアルを整備し、運用しています。

コンプライアンスの推進

法令・内部規則だけでなく、倫理面でも組合員・社会の期待に応えられる行動や判断を行うための指針として行動規範を定めています。

行動規範カード

「パルシステム東京行動規範」の本文を掲載した「行動規範カード」を役職員は常に携帯します。カードには「行動規範」のほか、「コンプライアンス相談窓口連絡先」「こことからだの健康相談窓口」「交通事故発生時の対応」「災害発生時の安否連絡手段」などを掲載しています。



行動規範カード

相談窓口（ヘルプライン）

職員からの相談案件に対応するほか、違反行為の防止や、迅速な是正を目的に設置しました。

コンプライアンス委員会

専務理事のもとに設置され、常勤理事及び執行役員並びに2人の外部有識者で構成。特に外部有識委員（弁護士、コンプライアンス専門家）の意見・具申は、効果的な牽制機能となっています。

2015年度 環境活動に関する監査所見

環境監査委員長 青木 玲子

技術士（環境部門）、環境カウンセラー

2015年度の主な環境関連動向として、人為起源の温室効果ガスゼロを目指すパリ協定が12月に採択され、化石燃料からの脱却が国際的に合意されました。また、電力小売自由化や再生可能エネルギー（以下、再エネ）、固定価格買取制度の見直しが進められました。再エネ全般の普及に追い風となっています。パルシステム東京は、バイオマス・小水力を主体に太陽光を含め、大変バランスの良い再エネの「産直でんき」を組合員向けに供給する準備を進めており、再エネ社会への転換を加速させるべく重要な契機を迎えていると言えます。

2015年9月は関東・東北豪雨の被害が生じ、東京の連続猛暑日が最長となり、災害や記録的な気象が続きました。なお、2011年の原発事故による放射性物質放出は現在も進行中であり、最大の環境問題と言える汚染の収束はいまだ見えません。

パルシステム東京では、厳しい自主基準に基づく食品の放射能の徹底管理を行い、再エネによる温室効果ガス削減、脱原発を目指し、地域の自然資源を活用した事業を推進しています。“食”も“住”も安全・安心な社会の構築、地域の復興支援、国内自給率向上への多大な貢献として、大変評価されます。

このような先進事業における地球環境・地域環境の保全の取り組みとともに、事業活動に伴う環境負荷削減に対しても、パルシステム東京では徹底して取り組んでいます。

環境監査委員会は従来からの事業所の現地監査を2015年度も実施し、環境方針や環境目標に沿って、本部や現場の職員が組合員と一体となり「農業とエネルギーの産直」「脱原発推進活動」「節電・省エネ」「廃棄物発生抑制・リサイクル推進」「石けん利用普及・有害化学物質削減」「生物多様性保全」「森林保全」等の取り組みを日々実践されている様子を確認してきました。

各委員の方々の所見※にも示されているとおり、遵法事項の点検機能の強化、環境配慮商品開発のためのパルシステム連合会との連携強化等の従来からの課題があります。また、2015年度の廃棄物発生量は前年度より増加し、組合員の協力を得てリサイクル回収率を高める工夫が望まれます。

これらの課題はあっても、2015年度の事業高が前年度の実績をさらに更新し過去最高となると同時に、再エネ転換によるCO₂排出量総量削減も達成しており、総合的に大変評価されます。

今後も私たちの食や環境を守り、持続可能な社会を構築する役割をパルシステム東京に担い続けていただきたいと願っております。

※各委員の所見はパルシステム東京ホームページに掲載

生活協同組合 パルシステム東京

本部事務所 〒169-8526 新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿
TEL 03-6233-7600(代) FAX 03-3232-2581
Eメール palsystem-tokyo@pal.or.jp

配送センター

江戸川センター	〒132-0025	江戸川区松江2-10-18
江東センター	〒136-0076	江東区南砂2-36-1
足立センター	〒121-0011	足立区中央本町4-3-3
港センター	〒108-0075	港区港南5-5-12
大田センター	〒146-0081	大田区仲池上1-31-1
板橋センター	〒174-0041	板橋区舟渡3-20-28
池尻センター	〒154-0001	世田谷区池尻2-23-4
練馬センター	〒179-0073	練馬区田柄4-38-5
世田谷センター	〒157-0061	世田谷区北烏山7-21-11
狛江センター	〒201-0003	狛江市和泉本町4-5-24
三鷹センター	〒181-0013	三鷹市下連雀6-15-18
府中センター	〒183-0052	府中市新町2-29-4
東村山センター	〒189-0011	東村山市恩多町1-10-1
多摩センター	〒206-0032	多摩市南野1-2-5
立川センター	〒190-0034	立川市西砂町6-16-7
八王子センター	〒192-0033	八王子市高倉町4-7
青梅センター	〒198-0024	青梅市新町3-11-1

福祉事業所

江戸川陽だまり	〒132-0025	江戸川区松江2-10-18
辰巳陽だまり	〒135-0053	江東区辰巳1-2-9-101
辰巳陽だまり	〒135-0053	江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル3F
東雲陽だまり	〒135-0062	江東区東雲2-4-3-106
八潮陽だまり	〒140-0003	品川区八潮5-2-2 八潮ビル2・3F
中野陽だまり	〒164-0003	中野区東中野4-7-9
第2中野陽だまり	〒164-0003	中野区東中野1-4-10
上町陽だまり	〒154-0017	世田谷区世田谷2-8-2
狛江陽だまり	〒201-0003	狛江市和泉本町4-5-24
府中陽だまり	〒183-0054	府中市幸町2-13-29
府中陽だまり	〒183-0054	府中市幸町2-13-30
東村山陽だまり	〒189-0011	東村山市恩多町1-10-1
愛宕陽だまり	〒206-0041	多摩市愛宕3-2 愛宕かえで館1F
福祉用具サービス 陽だまり	〒169-8526	新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿

● デイサービスセンター
● ホームヘルプサービス
● ケアマネジメントサービス
● 認知症対応型デイサービスセンター
● 認知症対応型グループホーム

保育園 ばる★キッズ府中 〒183-0054 府中市幸町2-13-29

関連施設 パルひろば辰巳 〒135-0053 江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル2F
下馬会議室 〒154-0002 世田谷区下馬4-13-6

ホームページ [パルシステム東京](http://www.palsystem-tokyo.coop/) [検索](#) http://www.palsystem-tokyo.coop/

発行 生活協同組合パルシステム東京 広報室